

財務データから見たイスラム銀行の経営実態について —GCC 諸国を例として—

筑波大学 上山 一

近年、イスラム圏を中心に、イスラム金融市場の規模が拡大している。こうしたイスラム金融市場における代表的なプレイヤーがイスラム銀行である。本報告では、GCC 諸国におけるイスラム銀行部門の経営実態について分析を行う。本報告は、以下の内容から構成される。①GCC 諸国における金融部門の特徴とその動向を考察することで、同イスラム銀行部門の置かれている市場環境について検討を行った。次に、②2005 年から 2011 年までのイスラム銀行の財務データを用いて、イスラム銀行部門の経営実態について分析を行った。分析結果より、2008 年 9 月以降の金融市場の混乱を受けて、GCC 諸国のイスラム銀行部門が業務の多角化に対して積極的ではなかったことが分かった。また、GCC 諸国のイスラム銀行部門を資産規模別に見た場合、経営規模における比較優位から、物的資本と労働力の両面において、上位行が最も効率的に経営資源を利用していたことが明らかとなった。さらには、GCC 諸国のイスラム銀行市場については、新規参入および支店網の拡大という状況がある一方で、銀行間の競争は依然として弱いことが示された。最後に、③本報告の分析結果を総括し、そのインプリケーションと今後の課題を指摘した。